

PRESS RELEASE

思いを、はせる。
長谷工グループ
HASEKO

2025年9月9日

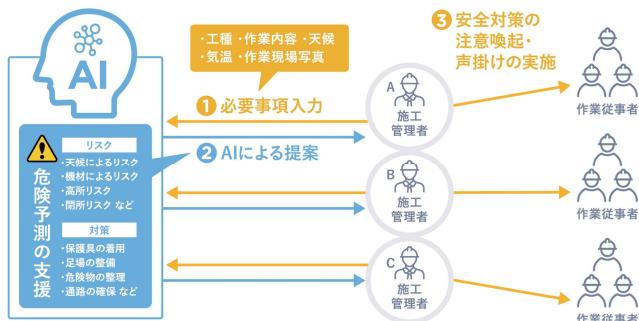
長谷工コーポレーション 生成AIで施工管理者の危険予測を支援 ～首都圏の全現場に採用、全エリア展開へ～

株式会社長谷工コーポレーション（本社：東京都港区、代表取締役社長：熊野 聰、以下「当社」）は、この度、建設現場における安全対策に関する知識の平準化と効率的な対応を実現するため、生成AI技術を活用することで施工管理者の危険予測を支援するシステムKizuki AI（キヅキアイ、以下「本システム」）をオープンソースのAI開発プラットフォーム「Dify」上で開発、活用を開始しました。2025年8月現在、当社が首都圏で手掛けるすべての建設現場（129カ所）に採用しており、今後、全エリアの建設現場へ順次拡大してまいります。

建設現場における災害撲滅のためには、施工管理者一人一人が災害に結び付く潜在的な危険に気づき、未然に防ぐことが重要です。一方で、危険予測は施工管理者の経験や知識の差が影響し、危険の見落としが生じる恐れがあります。加えて、昨今は労働者不足や時間外労働の上限規制等の対応が求められる中、安全に対する技術力向上には、より効率的で新しい情報取得が重要となっています。

本システムでは、パソコンやスマートフォンに工種、作業内容、天候、気温を入力し、作業現場の写真をアップロードするだけで、生成AIが熱中症や足場の不安定性など、想定されるリスクと対策を具体的に提示するため、施工管理者に気づきを与えることが可能になります。これまでの試行段階では、過去の災害事例の写真をもとにプロンプト（生成AIへの指示）を調整し、検出されるリスクの精度向上を図ってきました。また、若手の施工管理者と本システムのそれぞれがリストアップしたリスクを比較したところ、若手の施工管理者に新たな気づきを与える効果を確認しました。現在、首都圏の作業所にて検証を進めしており、システムの精度を高めていくとともに、近畿圏・東海圏の建設現場での利用拡大を進め、安全対策に関する知識の平準化と効率化を図っていきます。

当社では、現中期経営計画「HASEKO Evolution Plan」の重点戦略に沿って、DXを加速しております。引き続きマンション事業全体でDXを活用し、効率化による生産性の向上と働き方改革の両立を実現してまいります。



【本システム活用概念図】

【本システムの画面イメージ】

施工管理者がシステムを使用する際は、左の【入力画面】に工種、作業内容、天候、気温を入力し、作業現場の写真をアップロードすることで、右の【AI 予測結果の提示画面】に AI が予測したリスク、対策が瞬時に表示される仕組みとなっています。

【入力画面】



【AI 予測結果の提示画面】



検出されたリスク:

- 型枠の不安定性
型枠がしっかりと固定されていない可能性があり、崩壊するリスクがある。
- 高所作業による落下リスク
作業現場は高所にあり、作業者が落下する危険がある。
- 資材の不適切な配置
通路や作業スペースに資材が放置されており、つまずきや障害物による事故のリスクがある。
- 環境条件の影響
晴天で気温が低いため、作業者の動きが鈍くなる可能性があり、注意力の低下による事故を引き起こすことがある。
- 適切な作業手順の不明確さ
型枠組立における作業手順が明確でない場合、誤った方法での作業が行われるリスクがある。

対策:

- 型枠の点検と固定
型枠は適切に固定し、定期的に点検を行ってください。
- 落下防止策の実施
高所作業では安全帯を着用し、落下防止策を講じることを徹底してください。
- 資材の整理整頓
通路や作業スペースは常に整理整頓し、資材を適切な場所に置くようにしましょう。
- 作業者の健康管理
気温が低いことから、作業者の体調管理を行い、無理をせず適宜休憩を取るようにしましょう。
- 作業手順の周知
型枠組立の作業手順を明確化し、全員が理解できるように周知徹底してください。

